

アサクサノリ製品の品質管理・評価のための技術開発

アサクサノリ養殖 復活への挑戦・・・

本県では、平成25年度漁期から、アサクサノリの養殖を復活させる取り組みをすすめています。

アサクサノリは現在養殖されているスサビノリに比べ、味、香りなどが優れており高値で取引されています。



アサクサノリ養殖の課題・問題点

① 近くの漁場で養殖しているスサビノリから出た胞子(単胞子)がアサクサノリ網に流れ付き生長し、製品にスサビノリが混入することがあります。

② スサビノリとアサクサノリは葉体・製品ともに見た目においては見分けが付きません。

既存のDNA検査技術では・・・

製品中のアサクサノリの有無を判別することは ○
しかしながら、含有量を定量することは ✕

生産者・業界からの要望

「本当にアサクサノリなの？」

「どれくらいの割合でアサクサノリが入っているの？」

「これらを解決できる技術開発をしてほしい！」



要望に応える技術を開発しました！

三重大学と共同でアサクサノリの含有量を定量する新たなDNA検査技術を開発しました。

平成28年度漁期には、本県から出荷される製品に対しこの技術が活用されました。本県アサクサノリ製品のブランド化、付加価値向上が期待されます。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Suzuka Branch

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812